

2015 年度 ハラスメント防止研修会
アンケート調査結果報告

1. 回答者：教職員 26 名

2. 有用感

- 「本日の講演内容は、役に立ちそうですか」という問いを設け、「6.大変役に立ちそう」から「1.全然役に立たなさそう」までのリッカート尺度で尋ねた。全体の結果を図 1 に示す。
- 平均は、4.7 点であり概ね肯定的であるが、昨年度の教職員の評価（5.3）より若干低くなった。但し、昨年度の教職員の出席者は 6 名であり関心の高い者を中心に出席していたと思われる。

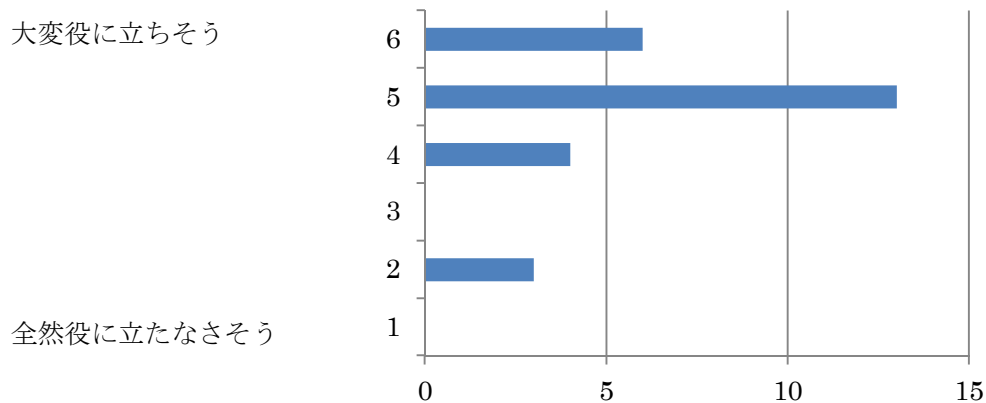


図 1 講演内容の有用感（横軸は人数）

3. 意義

- 「本日の企画は、意義があると思いますか」という問いを設け、「6.大変意義があった」から「1.全然意義がなかった」までのリッカート尺度で尋ねた。全体の結果を図 2 に示す。
- 平均は、4.8 点であり概ね肯定的であるが、昨年度の教職員の評価（5.3）より若干低くなった。

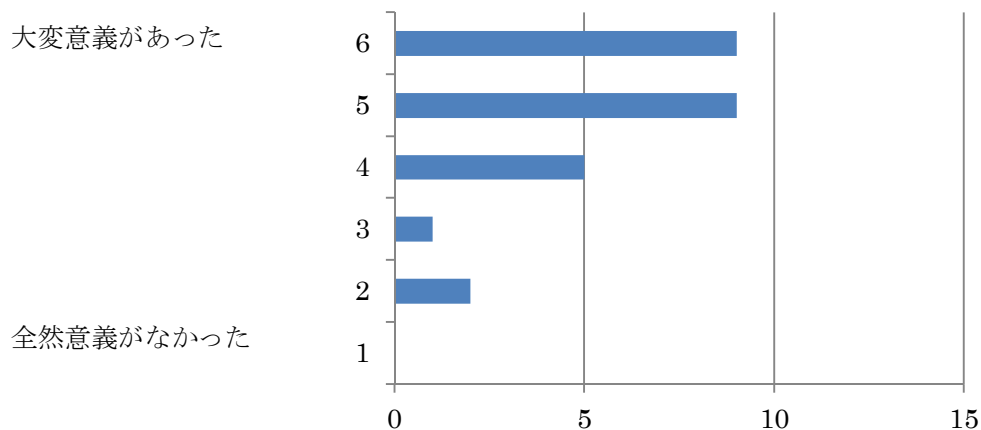


図2 講演内容の意義（横軸は人数）

4. 継続の必要性

- 「本日のような企画を、本学部・研究科が今後も継続することについてどう思いますか」という問いを設け、「6.ぜひ継続すべき」から「1.まったく継続性の必要性はない」までのリッカート尺度で尋ねた。全体の結果を図3に示す。
- 平均は、5.0点であり肯定的であり、昨年度の結果（5.2）とほぼ同じであった。

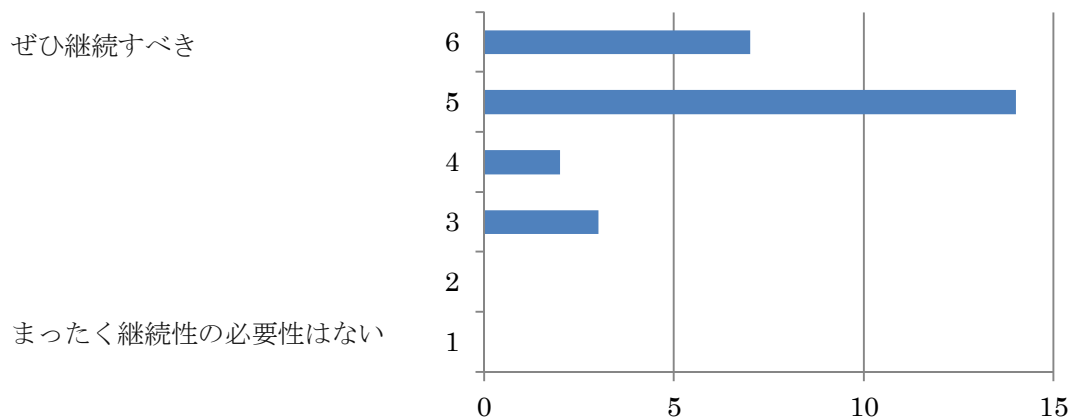


図3 継続の必要性（横軸は人数）

5. 当日の講演会に関する意見

- 「本日のハラスメント講演会に関して意見や感想がありましたらお書きください。」という問いを設け、自由記述で意見を求めた。
- 肯定的意見が大半であり、新たな知識を得たことや再確認する機会になったなどが多くを占める。
- 一方で、否定的意見としては、肯定的意見の逆の視点で、新奇性に欠ける点を指摘す

るものがあつた。

肯定的意見

- 1 「通知」に対応が大変参考になった。東北大学にもそのような制度があればよいなと思いました。
- 2 ボーダーラインの話、指導記録の話は為になった。
- 3 教員としての対応の指針が得られてとても参考になりました。
- 4 大学でのケースに特化してお話しいただき、大変身近な問題としてうかがうことができました。ありがとうございました。
- 5 研究室マネジメント、説明責任など心掛けているつもりではあったが、改めてその大切さを確認することができました。ありがとうございました。
- 6 具体的な指針が得られ有意義であつた。
- 7 ハラスメントの現況についてよく知ることができました。
- 8 「教育環境配慮義務」について知ることができたのはよかった。
- 9 ハラスメント（特にアカハラ）を考える上での指針を簡単に説明いただき、現状を整理できたように思います。ありがとうございました。
- 10 行為の是非としてではなく、裁判所の視点を紹介してもらうことでセルフマネジメントに有効な話だった。
- 11 教員を対象にした研修ということで、内容も対象者に沿っていてよかった。

否定的意見

- 1 ハラスメント関係の講演は FD 等で聞く機会が多いので、今回の講演内容はあまり新しい印象を受けなかったです。
- 2 せっかくの FD なので、通り一遍でない話を聞きたかった。

5. 今後のハラスメント防止策に対する意見

- 「今後のハラスメント防止対策に期待することなど、意見や感想がありましたらご記入ください。」という質問を設け、自由記述で意見を求めた。
- より具体的な対応方法に関する内容や焦点化した内容の希望が見られた。開催方法などに関する要望も寄せられた。

1. 「指導のため」「あなたのためにすべき」でハラスメントを繰り返していた人もいた。どうしたらよいか教えてほしい。
2. 一般的なものよりパワハラ、アカハラなど回ごとに具体的なハラスメントに絞った内容にするといいかと思います。
3. 資料 9 頁目「通知⇒調整」に至る、つまり問題を閉じた研究室、教員・学生の関係

から表に出すためのシステム作りが問われるように思います。

4. 防止対策についても詳しく教えてほしい
5. 一般的なものよりパワハラ、アカハラなど回ごとに具体的なハラスメントに絞った内容にするといいかと思います。
6. ハラスメントの理解は大切なことだと思います。過去、教職員と学生・院生が同じ場所で講習を受ける経験がありましたが、なんとなく居心地の悪さを感じました。教職員と学生・院生を一緒にすることのメリットデメリットについて検討いただければ幸いです。FDなどに追われている状況そのものが望ましいと思っているわけではありませんが。